

新宅 道和 選

特 選

しゆくだいをしながらとぶ蚊をうちはらいしばらく休んで計算にもどる

尾道市立向東小学校四年 杉本 陽平

【評】五月蠅い蚊をやっつける少々大げさな「うちはらい」がおもしろい。「計算にもどる」で短歌がピシリと決まっている。

水泳の時間は終わり体洗うシャワーの圧力意外に強い

尾道市立向東小学校六年 鑑廣 隼汰

【評】泳いだ後のシャワーの水圧が思いのほか強かった。これからも何気ない生活の一瞬を切り取った短歌を詠み続けてほしい。

「異常気象」「最高気温」「史上初」いつものことかとチャンネル変える

呉工業高等専門学校三年 武田 康志

【評】初句から第三句まで普通ではない気象用語。しかし異常が多usedれるとそれは異常ではなくなっていくことに気づいた。

あさがおはなんじにさくのけさぼくが四じにおきたらもうさいていた

三次市立みらさか小学校一年 土井 孝弘

【評】朝顔が何時に咲くのか不思議に思い、四時に起きたらもう咲いていたということ、会話文で定型にきちんとまとめた。

水やりでもらった百円にぎりしめソフトクリームのれつにならんだ

庄原市立東小学校二年 中野 郁実

【評】ソフトクリームの列に作者も並んだ。払うお金はお手伝いをしてもらった百円玉。「にぎりしめ」が効いている。

駅伝の練習の後のユニフォーム汗くさいけどおいらの匂い

庄原市立口和中学校二年 坂村 隼斗

歩き方いつもと少し違ってるオリンピックの競歩見てから

県立三原高等学校二年 森野 未弓

身長差無視され続けてどこまでもずっと無視されるぼくのそんざい

広島国際学院中学校二年 中藤 慶心

猫見つけ後を追いかけてひっそりとそこには子猫のお家があった

呉市立呉高等学校二年 松原 花梨

寝坊してチャリぶつとばし通学路彼が見えたら安全運転

呉工業高等専門学校三年 山根 仁

一斉に家族集まり武器を取り戦闘体制どこだゴキブリ

県立三原高等学校二年 岸田聡二郎

中二女子思春期到来荒れ狂う私の心は迷走ハリケーン

福山暁の星女子中学校二年 泉川 媛夏

推し話す日本語を聞き韓国語話せる日までノートを開く

県立呉商業高等学校二年 河野 結

夏の歩道触れた素肌が恥ずかしい次会うときは長袖にする

廿日市市立廿日市中学校二年 重田 凧沙

徹夜明け動かぬ頭働かせとったノートは解読不能

呉工業高等専門学校三年 岡田 涼那

満開の夜桜見ながら立ちどまり立ちどまりして坂道のぼる

尾道市立向東小学校五年

吉原 瑠夏

暑い夏怖い話を聞いたとき心の風鈴静かに揺れる

県立三原高等学校一年

安東 優希

夏休み祖父母の家に泊まったら花火のように上がる体重

県立三原高等学校一年

弓場 椋太

文系と理系選択悩むとき君がいるから理系にしよう

県立三原高等学校一年

原 拓海

なつの川ニジマスとってやいてたべたいのちにかんしゃのこさずたべた

庄原市立東小学校二年

宮田 秀朔

朝ねぼうラジオ体そう間に合わず目覚まし時計ふたつに増やす

庄原市立東小学校六年

山本 滯月

試合中「絶対勝つ」と口では言うが心の中では今日もダメかも

庄原市立口和中学校二年

居原 晁汰

友達と遊園地行く夏休み回しまくったコーヒーカップ

県立三原高等学校二年

玉那覇大葵

ばっちゃんのまがったこしをおしながらのぼるさかみちあせびつしよりだ

庄原市立東小学校二年

島田 悠利

休み前自転車事故で頭打ち何もできずに半分終わる

県立三原高等学校一年

田尾 龍誠

新宅 道和 選

特選

猛暑日のひかりをまとひ勇ましく吾子ははじめて海へ踏みこむ

広島市 熊谷 純

【評】「勇ましく」がほほえましい。「ひかりをまとひ」はオーバーだが、そのことで子どもへの愛情がよく伝わる。

うめくごと泣くを携帯に聞きしのみ酸素マスクに声ふさがれて

福山市 若林美知恵

【評】入院中の人の声は酸素マスクに遮られ「うめくごと」聞こえた。病名は分からないが、いたたまれない短歌。

不意に來し静寂が不安かきたてるただ扇風機が停止しただけ

広島市 岡田 寿子

【評】回っているときは音の気にならない扇風機。止まって静かになり違和感を持った。あるあるの経験を巧みに詠んだ。

路地裏に藁の匂ひの蘇る被爆に耐へし人家を解けば

広島市 永井 勝弘

【評】被爆したものの焼け残った藁葺きの家の解体現場。その情景が映像のみならず嗅覚までも感じさせる短歌。

白猫の鼾聞きつつ添い寝する横に広がる孤独死の紙面

広島市 斉藤 恵子

【評】独り暮らしの作者の横で白猫は安心して鼾までかいている。新聞には孤独死の記事が。静止画ではなく動画的な短歌。

そびえ立つ高炉はもはや錆おりしされど誇るがに夕陽に染まる

呉市 中島 義夫

世の中についてゆけないわからないオワコン・タイパ・サブスクなどの

広島市 小坂 修

蟬の穴を数え草取るとり進むどう生きるかは間に合わずとも

庄原市 奥井 久子

カープ戦タイガース相手に0対0延長聞きつつケトルを磨く

広島市 長尾 裕子

過去よりも未来を語り合ふ君に日傘差し掛け炎天をゆく

三原市 新谷 眞子

知りたきは医の死生観ゆつくりと酒酌み交わし語りたき夜

広島市 越智 隆義

あかつきの光さしくる製鉄所呉の跡地に静かに赤く

広島市 加土 道子

とび越えし柵の高さは二メートル長女夫婦は鹿害嘆く

呉市 古谷 明子

戦争の終りはいつとヒロシマで「平和のポスト」に問う十二歳

廿日市市 金子貴佐子

ガン細胞首の骨まで転移して「殺してくれ」と叫ぶ夫が

広島市 梶田 董子

シヨパン弾くフジコ・ヘミング視つつ思う老いることは自由になること

三次市 堂本 明美

朝の陽に大地が呼吸始めたり水蒸気白く畑よりのぼる

三原市 小白 照子

やっさ祭り夜を焦せる踊り手のヤッサヤッサと町に飴す

三原市 矢原ミユキ

虫たちも生きづらからんこの猛暑花に水撒けばバツタら寄り来

広島市 木戸 博恵

子ら歌ふ「ひろしま平和の歌」聞こゆ今朝全開の校舎の窓より

広島市 大多和 義

とりどりに流す灯笼揺らめいて祈りの声が水面に広がる

広島市 大江 達美

忘れてた夏の思い出取り出して季節外れの花火楽しむ

大竹市 藤野真由美

パワハラと言う言葉無き世を生きて辛抱せよと親に諭され

三次市 林 章子

入院の父に代わって水回り向きに迷える水口の石

安芸郡府中町 石橋 康徳

ふるさとを箱いっぱい詰めて込んで娘に送る海とレモンと

広島市 倉橋 香織